

第1分科会 国語教育（言語活動と言語の教育）

主体的に学び、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成

～美しい言葉を取り入れた国語科教育～

1. 設定理由

情報化、国際化する社会の中では、何が重要であるかを主体的に判断し、自ら課題を見つけ、他者と協力しながら問題を解決していく協働的問題解決力が必要である。また、学習の基本は国語科においての日本語の習得であると考えた。そこで、日本語の美しさに触れる学習を通して言葉への関心を高め、語彙を増やし、自らの考えを豊かに表現できる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

【仮説1】美しい日本語を授業や日常生活の中に効果的に取り入れれば、進んで言葉の学習に取り組み、語彙を増やすことができるだろう。

【仮説2】めざす姿を明確にし、そこに迫る言語活動を工夫すれば、主体的に課題を見出し、意欲的に学ぶ子どもが育つだろう。

【仮説3】考えを伝え合う場と活動を工夫し、探究的な話し合いを行うことで、自分の考えをさらに深め、お互いを高め合う子どもが育つだろう。

3. 研究内容

仮説に沿って具体的な手立てを考え、授業実践で行い、児童の変容から仮説の検証を行った。本提案の内容は、学校全体でのとりくみと、第6学年「枕草子を味わおう～自分流『枕草子』を書いて、感想を話し合おう～」の単元の授業実践である。

4. 結論

国語への関心や主体的に学習する力、探究的な話し合いの力が向上した。語彙力をさらに高める手立てを模索し、教材研究を深め、考えを伝え合うことのできる環境作りを今後も進めていきたい。

印旛支部

佐倉市立根郷小学校 貝渕 寛枝

昆野 崇明

1 研究主題

主体的に学び、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成 ～美しい言葉を取り入れた国語科教育～

主体的に学び…自らの課題をもち、それを解決させるために調べたり、他者と意見を話し合ったりすること。

豊かに表現……他者と交流することで、自分の考えを深め、確かなものにして他者に知らせること。

2 主題設定の理由

(1) 社会的な課題より

国際化、情報化する社会の中で、学校では、互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）ができるような力の育成が必要である。

(2) 学習指導要領より

次期改訂がめざす育成すべき資質・能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、課題の発見・解決に向けた「主体的・協働的な学び」が重視する必要がある。また、学習指導要領に明示されているように、これからの国語科教育では、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を大切に指導を行う必要がある。

(3) 学校教育目標より

本校では、「実践力があり個性豊かでたくましい児童の育成 ―進取の心―」を学校教育目標に掲げ、具現化を図っている。本校では、「実践力」を友だちと協働して問題解決にあたる力であると考え、本研究でも、主体的に課題を見出し、他者との交流を通して自分の考えを深め、それを表現できる児童の育成を図っていく。

(4) 児童の実態より

2016年度の7月に児童の意識調査では、国語科の学習が好きな児童は540人中407人で75%であった。しかし、その一方で、話す・聞く活動や書く活動など表現活動が好きな児童は343人で64%であった。自分の考えをもつことができなかつたり、考えをもっていたとしても他者の前で表現することが苦手であったりする児童が多かった。表現することをためらう児童が多いことは、語彙の少なさや言葉の理解の低さが考えられる。学習の基本である国語科の学習で日本語の美しさにふれさせ、子どもたちの言葉に関する関心を高め、語彙を増やすことで、表現力を高めたい。そして、特に「話す・聞く活動」において、児童が日本語に関心をもち、主体的に学習にとりくみ、自らの考えを豊かに表現できるような手立てを模索することとし、本研究主題を設定した。

3 研究仮説

仮説 1

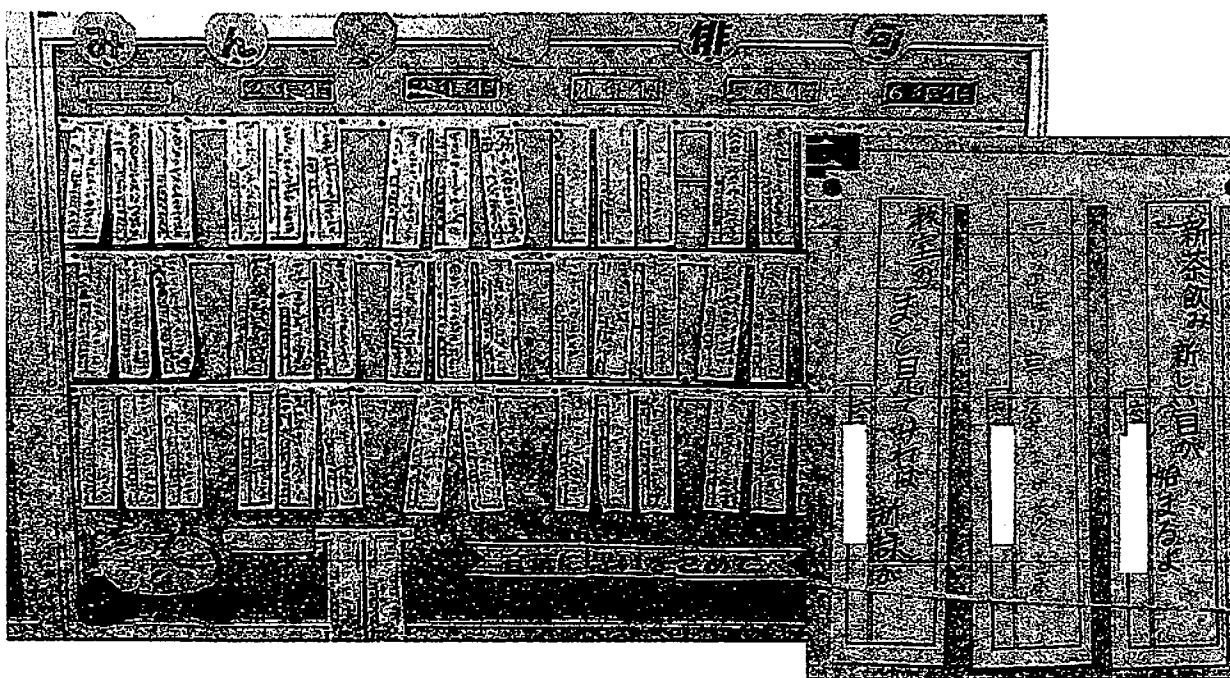
美しい日本語を授業や日常生活の中に効果的に取り入れれば、進んで言葉の学習にとりくみ、語彙を増やすことができるだろう。

児童の表現力の低下は、語彙力の不足が考えられる。まずは、児童の意欲を引き出すために、美しい日本語を授業に取り入れ、日本語の楽しさに気付かせるようにする。

本校での「美しい言葉」とは、「論語」や「奥の細道」をはじめとする名文や名作など、美しさやリズム感、表現の巧みさがあり、情景や心情の浮かぶものである。それらを音読し、親しむ活動を通して、児童が日本語を楽しみ、読む・話す・聞く・書くなどの学習に意欲的に取り組めると考えた。また、意欲が高まっても表現するための「言葉」や「方法」を知らなければ、個人の能力を高めることは難しいと考え、「語彙」を増やし、モデルとなる美しい文章に触れることで表現力を高めたいと考えた。国語辞典などいろいろな辞書も活用して言葉を学ぶ機会を多くし、それらの体験的な学習を通して、児童の表現力が高まると考えた。

<具体的な手立て>

音読の工夫 視写 言葉集め 俳句・短歌づくり 群読会 創作活動 辞書の活用

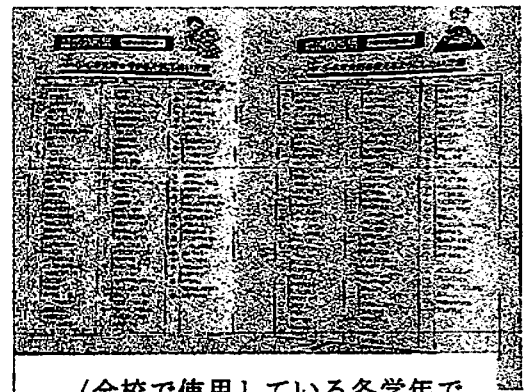


〈全校とりくむ俳句作り〉

〈各学級3句を職員室前に掲示〉

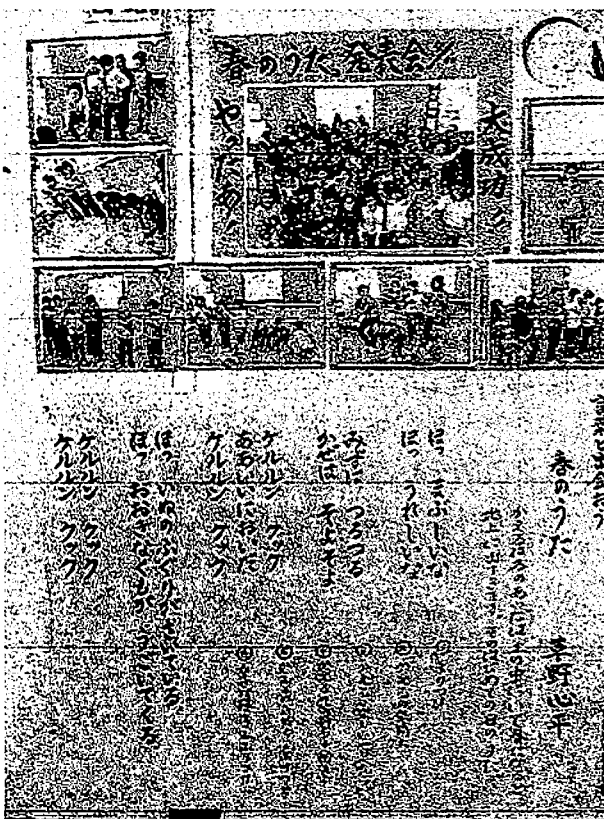


〈全校でとりくむ朝の音読〉

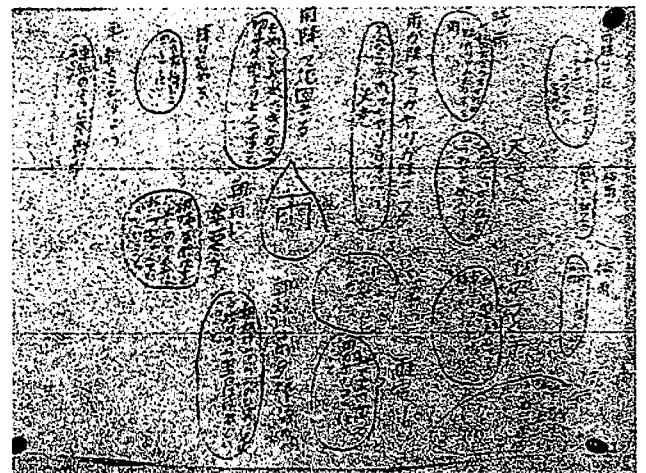


〈全校で使用する各学年で
使えるようにしたい感想の言
葉集〉

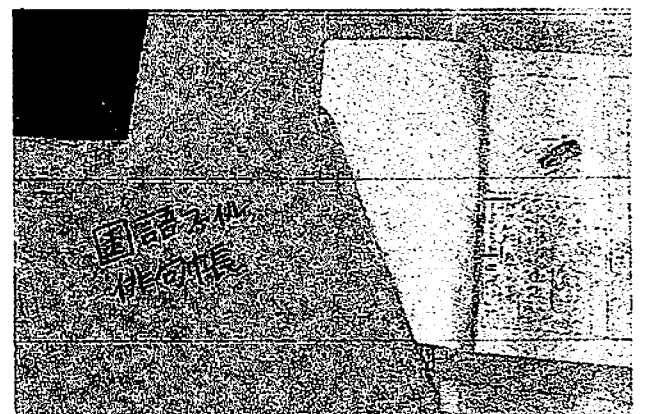
『井上一郎「読解力」をのぼす
読書活動』（明治図書）



〈第4学年のとりくみ：音読発表会〉



〈第6学年のとりくみ：言葉集め〉



〈第3学年のとりくみ：俳句帳〉

仮説 2

目指す姿を明確にし、そこに迫る言語活動を工夫すれば、主体的に課題を見出し、意欲的に学ぶ子どもが育つだろう。

主体的に学習にとりくむためには、児童が「やってみたい」「おもしろそう」と思うような言語活動の計画が必要である。児童に自分の考えを表現したい、伝えたいという目的や相手意識をもたせるよう工夫して主体的な活動ができるようにする。また、どのような力を付けたいのか、望ましいめざす姿を明確に提示することで、表現する力を向上させていくようにする。自分の姿を自己評価したり客観的に評価したりできるように振り返りを工夫することで、めざす姿と自分を比較し、見通しをもって意欲的に学習にとりくめると考える。

<具体的な手立て>

身につけさせたい力の明確化 言語活動の工夫 よいモデルの可視化
目的・相手の提示 学習の流れの掲示 振り返りカードの活用

仮説 3

考えを伝え合う場と活動を工夫し、探究的な話し合いを行うことで、自分の考えをさらに深め、お互いを高め合う子どもが育つだろう。

授業においては、一人ひとりが納得するまで話し合う場と活動を大切にする。考えを伝え合う場を工夫することで、児童は自分の考えを伝えるだけでなく他者の考えや意見を理解し、取り入れる等、相互作用的な活動を行えるだろう。他者と意見を交流させ、新たな考えや発想があったことに気付いたり、確信を得たりして、考えを深めて表現ができる。

また、学習を振り返る活動や、次時への見通しを確認する活動を大切にするすることで、個への対応が可能になる。自分の考えをなかなかもてない児童への個に応じた手立てを用意することで、一人ひとりが自分の考えをもって交流し、交流したことでさらに思考し、表現することができるだろう。個人では深められない学習も、小グループ編成であれば、より深い話し合いが可能である。それをまた、学級全体で磨き合うことで、より深い思考をし、それが、個々の表現力を高めると考える。

<具体的な手立て>

児童の実態の把握 個に応じた手立て・声かけ ワークシートの工夫
振り返りカードの工夫 考えを伝え合う場と方法の工夫 グループ学習

4 授業実践

第6学年

1 単元名

枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～

2 単元の目標

「国語への関心・意欲・態度」

- ・進んで「枕草子」を読んだり、自分流「枕草子」を書いたり、感想を話し合おうとしたりする。

「話すこと・聞くこと」

- ・考えたことや伝えたいことを古語の知識や季節に対する情報を関係させて話し、表現のしかたについて感想を述べたり、友たちの感想を自分の感想と比べて聞いたりすることができる。

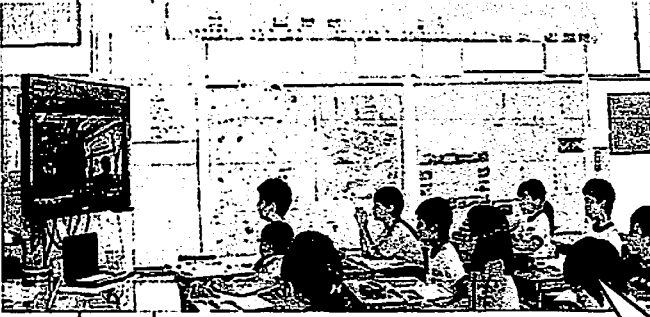
「書くこと」

- ・自分流の「枕草子」を書き、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- ・「枕草子」の内容の大体を知って音読し、清少納言や友たちのもの見方や感じ方をすることができる。

3 学習の様子（6時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	○支援◎評価
第一次 つかむ 1	1	・枕草子を読み、教材の概略をつかむ。モデルを見て、自分流の「枕草子」を書き、それを交流するという学習の見通しがもてるようにする。 枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～ ・学習の計画を立てる。 ・原文を繰り返し音読する。	○支援◎評価 ○モデル動画を見ることで学習の意欲付けを行う。 <u>手立て：よいモデルの可視化〈仮説2〉</u> ◎学習の計画を立て、学習の流れをつかもうとしている。 （関心・意欲・態度） <u>手立て：言語活動の工夫〈仮説2〉</u> 自分流の「枕草子」発表会の様子をモデルとして動画で見せることで、目標とする姿がわかり、意欲的に活動することができた。
		 〈モデルを見ている様子〉 →ビデオ1	

- ・内容が親しみやすい。
- ・清少納言の季節に対する思いがよくわかる。
- ・模倣して創作しやすい。
- ・自分の季節への思いを伝えたり他者の季節に対する思いを感じて話し合いをしたりすることができる。

ゆくはきくして、うのきかばる	あきり	あきり	あきり
-----------------------	------------	------------	------------

抽出児童 A (学習が苦手)

自分の課題 あきり	あきり あきり	あきり あきり
-------------------------	-----------------------	-----------------------

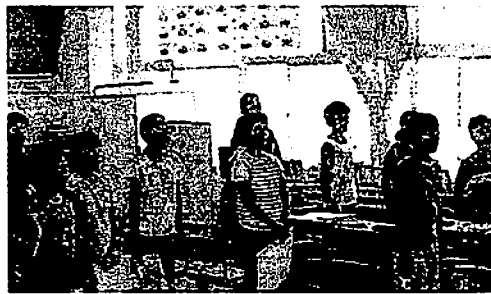
抽出児童 B (発表、話すことが苦手)

自分の課題 あきり	あきり あきり	あきり あきり
-------------------------	-----------------------	-----------------------

抽出児童 C (話すことは得意)

手立て：児童の実態把握〈仮説3〉

- ・大意を参照しながら原文を読み、各「季節」の情景をイメージする。
- ・四季に対する感じ方をどのように表現しているかに着目して音読する。



〈枕草子の第1段を暗唱する様子〉

○何度も音読することで、「枕草子」の短くてリズムのよい響きを味わわせる。

手立て：音読の工夫〈仮説1〉

◎「枕草子」を味わい、日本語のおもしろさを感じている。

(読むこと)

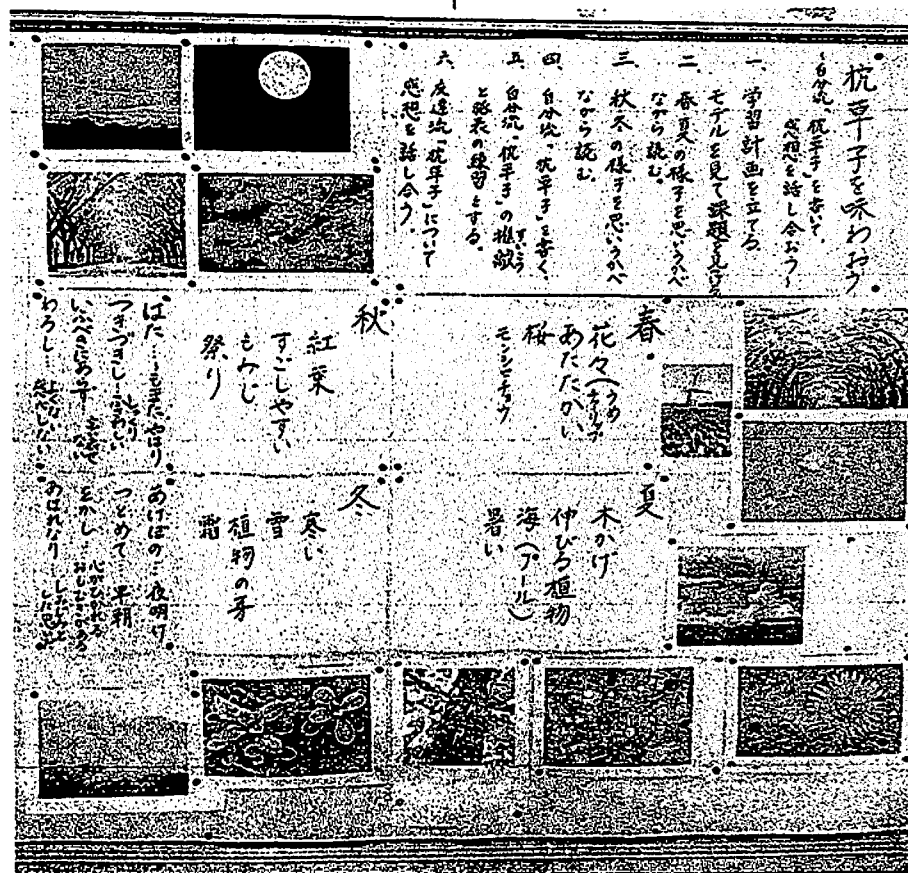
○古文の言葉の使い方を今と比較できるようにする。

◎当時の言葉と今の言葉との、相違点や共通点に気付いている。

(伝国)

何度も音読

- 語感や現代語と古語の違いへの気付き
- 表現の工夫に対する関心
- 創作への意欲



〈児童と立てた学習計画の掲示物と児童から出た好きな四季の風景〉

手立て：学習の流れの掲示〈仮説2〉

第三次
まとめあげる
3

2

- ・自分の感じる季節感を「枕草子」のように書く。
- ・どのような表現がよいか、言葉の選び方などを友たちと助言し合う。

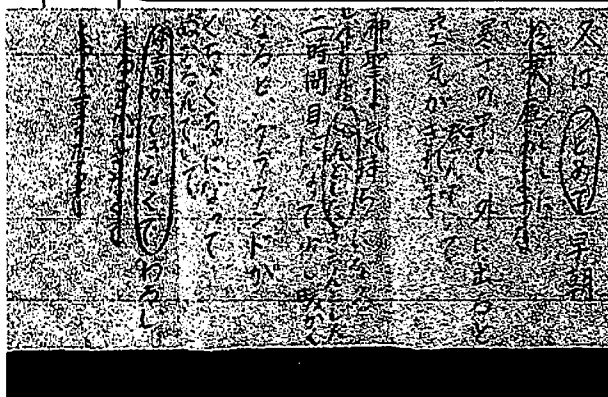


〈類語辞典、国語辞典を使って言葉を吟味している様子〉

→ビデオ2

言葉を収集し、吟味する活動
(よりよい作品をめざしての話し合い)
→自分の思いを説明
→辞書の活用で語彙の増加
→関心が高まってもらい話そうと思うと言葉が浮かばない児童にとって有効

四季の特に好きな季節をもとに小グループをつくった
→意見が出しやすい、緊張感や不安の軽減
他の季節を選んだグループに自分の物の見方や感じ方を伝えるという目的で自分流の「枕草子」を創作
→意欲的な活動
グループの友達と考えを伝え合う活動
→言葉の吟味や書けない児童の支援、高め合い



〈教員の示したモデル〉

- ワークシートを使って自分の感じる季節感を書き出すことで、考えを整理したり、語彙を増やしたりできるようにする。

手立て：辞書の活用〈仮説1〉

：ワークシートの工夫〈仮説3〉

- 言葉をたくさん収集し、吟味するときに友たちと助言し合うことで、自信をもって創作できるようにする。

手立て：考えを伝え合う場の工夫、

グループ学習〈仮説3〉

- ◎表現を工夫して自分流「枕草子」を書いている。

(書くこと)

手立て：創作活動〈仮説1〉



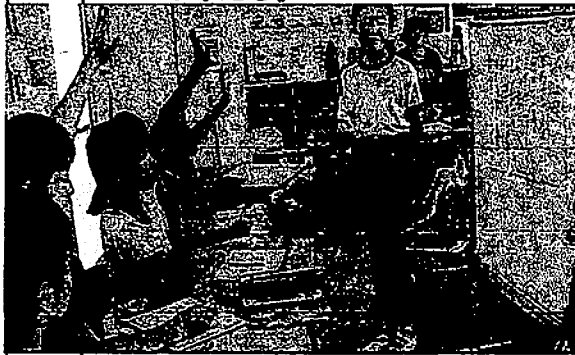
〈「枕草子」発表会の練習を動画で撮影し、話し方がよいか確認している様子〉

→ビデオ3

手立て：よいモデルの可視化〈仮説2〉

1

- ・できた作品を発表し合い、それについての感想を話し合う。
- ・振り返りを行い、自分の成長について考える。



〈自分流「枕草子」発表会の様子〉

→ビデオ4

他の季節を選んだグループと交流
 (季節に対する考えが深まるように聞く)
 観点：言葉の選び方や表現の仕方
 特に心に残ったところ
 情景や心情がわかる場所
 自分には思いつかないところ
 →聞き手としての技能
 →伝わるように話したいという態度
 →伝わるような話し方の工夫

○友たち流「枕草子」の表現について、「心に残ったところ」、「情景や心情がわかる場所」、「自分には思いつかないところ」の3つの観点をもって聞くようにすることで、感想がもてるようにする。

手立て：考えを伝え合う場の工夫〈仮説3〉

○友たち流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友たちの感想を自分の感想と比べて聞いたりしている。

(話すこと・聞くこと)

○振り返りカードをつかって、自分の成長に気付けるようにする。

手立て：振り返りカードの活用〈仮説2〉

振り返りカードを活用し、支援をすることで振り返りカードやワークシートを確認することで、個々への声かけなど対応ができ、一人一人が意欲的に学習できた。(資料編参照)

自分のグループは、(春)グループ
 この話し合ひで春に思ひあつて、木
 ざきこれだとなんと思ひました。春は
 うんた花がさかるといふことだ。

自分のグループは、(夏)グループ
 夏は暑いから、水遊びが大好きです。
 夏は、花火が大好きです。夏は、
 リンゴが大好きです。夏は、
 夏は、水遊びが大好きです。夏は、
 夏は、花火が大好きです。夏は、
 夏は、リンゴが大好きです。夏は、

自分のグループは、(秋)グループ
 秋は、木々が黄色くなるのが好きです。
 秋は、お月見が大好きです。秋は、
 秋は、お月見が大好きです。秋は、
 秋は、お月見が大好きです。秋は、
 秋は、お月見が大好きです。秋は、
 秋は、お月見が大好きです。秋は、

〈左から児童 A、B、C の感想〉

5 成果と課題

仮説1について

〔成果〕国語への関心の向上

○2017年度7月児童のアンケートより、「日本語の美しさを感じている」児童は全校の72%。

「国語の学習で自分の思ったことや考えたことを表現する活動は好きか」という質問に対し肯定的な回答は2016年度7月の64%から29年度7月に72%と増加した。また、児童の感想から、「言葉や漢字が覚えられる」、「おもしろい」と語彙が増えつつあると感じられる。

○6年生の実践より、実践前と実践後では、古典が好きと答えた児童が64%から76%に増えた。学習に進んでとりくみ、言葉を大切にして学習する姿が見られた。

〔課題〕語彙力をさらに高める手立て

●日本語のよさやおもしろさを感じているにもかかわらず、具体的に記述できた児童は60%であった。今後も語彙を増やし、表現する力を付けさせていきたい。

仮説2について

〔成果〕主体的に学習する力の向上

○「国語科の学習にめあてをもって取り組んでいるか」という質問に、全校の79%が肯定的な回答をした。6年生の実践では、肯定的な回答が実践前の64%から84%に実践後増加した。

○児童に身につけさせたい力を指導者が明確にねらい、その力をつけられるような言語活動を設定し、言語活動のゴールとなる姿を導入の段階でよいモデルとして見せることで、児童が見通しをもち、主体的に活動することができた。

○振り返りカードを使い、学習したことを振り返る時間をとることで、次時への見通しの確認ができ、意欲的に学習に取り組めた。

〔課題〕より一層の教材研究と言語活動の工夫

●めざす姿を指導者がしっかりととらえ、つけさせたい力を絞って言語活動を設定したり、モデルを作ったりすることが難しかった。今後も教材研究と児童の実態把握が必要である。

仮説3について

〔成果〕探究的な話し合いの力の向上

○友だちから助言されたときに、その意見を生かしてよりよくしようとしているか」という質問に対し、全校では2016年度7月が73%、12月が83%、2017年度7月が88%と増加している。考えを伝え合う場を意図的に設定し、グループ学習を推進した効果である。

○6年生の実践では、聞き手を育てる指導を大切にすることで、実践前は、話すことのみ、聞くことのみに意識が向いている児童が多かったが、話し合いをすることで、自分の考えが深まったり広がったりすることに言及している児童が増えてきた。

○ペアや少人数によるグループ活動など学習形態を工夫することで、表現することへの抵抗感が薄れるとともに、相手が表現したことに対して必ず反応しなければならない状況ができた。

〔課題〕考えを伝え合うことのできる環境づくり

●考えを伝え合うための工夫のある場の設定は、聞き手や読み手を育てるために、学級指導で児童が互いに認め合う雰囲気を作ることも含めて、まだまだ必要である。表現しやすい状況や環境が児童の学び合いを助けることになるであろう。また、聞き手や読み手が育つことで、友だちの反応が励みになるとともに、さらに自分の考えを豊かに表現する児童が育つだろう。国語科だけでなく他教科などでも意図的に話し合い活動を実践していく必要がある。

目次

① 2017年度 第6学年実践資料本時指導案

② 教員のモデル

③ ビデオ2～4 文字起こし

① 2017年度 第6学年実践資料本時指導案

1 単元名

枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～

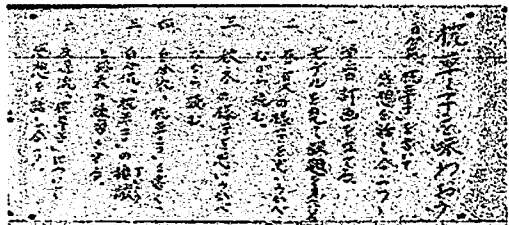
2 学習の様子（6／6）

（1）目標

○友だち流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友だちの感想を自分の感想と比べて聞いたりすることができる。

（話すこと・聞くこと）

（2）展開

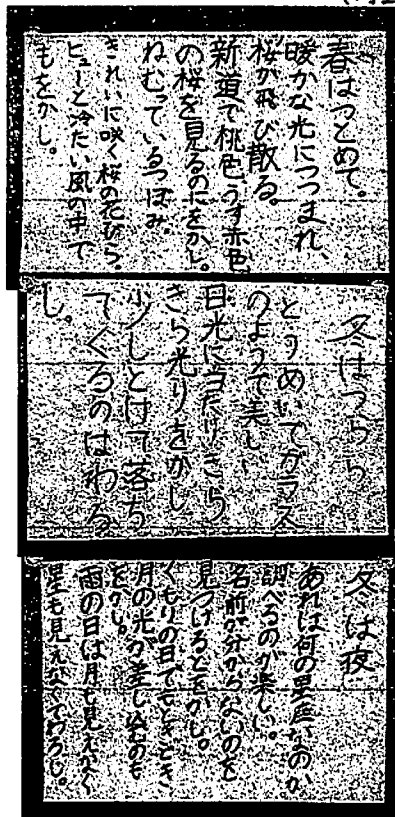
時配	学習内容と学習活動	指導・支援（○）評価（◎）→反省	資料
2	1 枕草子を暗唱する。  〈枕草子の第1段を暗唱する様子〉	○発声させることで、姿勢を正しくさせ、学習の雰囲気作りをする。 〈仮説1〉 →何度も音読させることで、教材文の「枕草子」特有の歯切れのよい語感に気がきおもしろさを感じていた。 ○学習の流れの掲示物を示し、学習に意欲的に取り組めるようにする。 	学習の流れの掲示物
5	2 本時のめあてを確認する。 友だち流「枕草子」について感想を話し合おう。 ・ 早口になってしまうので、ゆっくり堂々と作品を紹介したい。 ・ 自分の作品と比べながら友だちの作品を聞きたい。 ・ 友だちの作品について感想がたくさん言えるようにしたい。	○前時の振り返りカードの記述を想起させ、それぞれの自分の課題をもたせる。 〈仮説2〉	
28	3 季節ごとのグループで作品を発表し合い、感想を話し合う。 ・ ○○さんの「枕草子」は、ヒューという冷たい風を表す言葉に気を付け	○作品作りの際に、助言し合った仲間は、司会者として発表者の努力や注目すべきところを紹介するようにする。	作品ワークシート

て聞いてください。

(司会者)

- ・「ねむっている桜のつぼみ」という表現が、ぼくは思いつかないし、よく情景が思い浮かんでよい表現だと思いました。
- ・風がまだ冷たい様子が伝わってきました。
- ・「をかし」を2度つかっていて、暖かいときでも寒いときでも「桜はいい」としていて古語の使い方がいいと思いました。
- ・風の様子が伝わってよかったです。自分の意識していなかった「ねむっているつぼみ」がよいと言われて嬉しいです。(発表者)
- ・〇〇さんの、「ヒューと冷たい風の中で」の表現が、聞いていた人伝わっていたのでよかったです。

(司会者)



〈児童の作品〉

○表現の仕方について、「心に残ったところ」、「情景や心情などがわかるところ」、「自分には思いつかないところ」の3つ観点をもって聞くようにすることで、話し合いが活発になるようにする。

＜仮説3＞

○友だちはどのような季節感をもっていて、それをどのように表しているかに着目して聞き、それを引用して話すようにする。

◎友だち流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友だちの感想を自分の感想と比べて聞いたりしている。

【観察、ワークシート】

○難しい児童には、印象に残った言葉のみについて述べられるようにする。

○自分の季節に対する思いが相手に伝わったか、振り返るようにさせる。

→季節について相手が意図したことを聞き取るように促して聞き手としての技能を高めるとともに、伝わるように話したいという態度や伝わるような話し方の工夫をさせることができた。

→司会者によっては、感想を言わせるだけで、それに対する反応を発表者や他の聞き手から引き出させなかったもので、話し合いが深まらないところもあった。聞き手が発表者に助言をしたときに、どちらがよいかそこで意見を交換させるとよかった。



〈発表の様子〉

10 4 学習の振り返りを行う。

→自分の書いた「枕草子」と比べさせ、改めて季節に対して感じたことや、友だちとの感じ方の違いから、深まった季節感について述べるようにした。

ワーク
シート

○学習を通して、何がわかったのか、何が身に付いたかを振り返り、何が課題であるか振り返りカードに書けるようにする。

振り返
りカー
ド

学習内容を振り返り、毎時振り返りを行う。

日	時	学習内容	振り返り	学習内容	振り返り
7/1	6	夏祭りの準備	夏祭りの準備	夏祭りの準備	夏祭りの準備
7/7	6	すいー	すいー	すいー	すいー
7/6	4	自分	自分	自分	自分
7/4	3	自分	自分	自分	自分
7/3	2	自分	自分	自分	自分
7/3	1	自分	自分	自分	自分

学習内容を振り返り、毎時振り返りを行う。

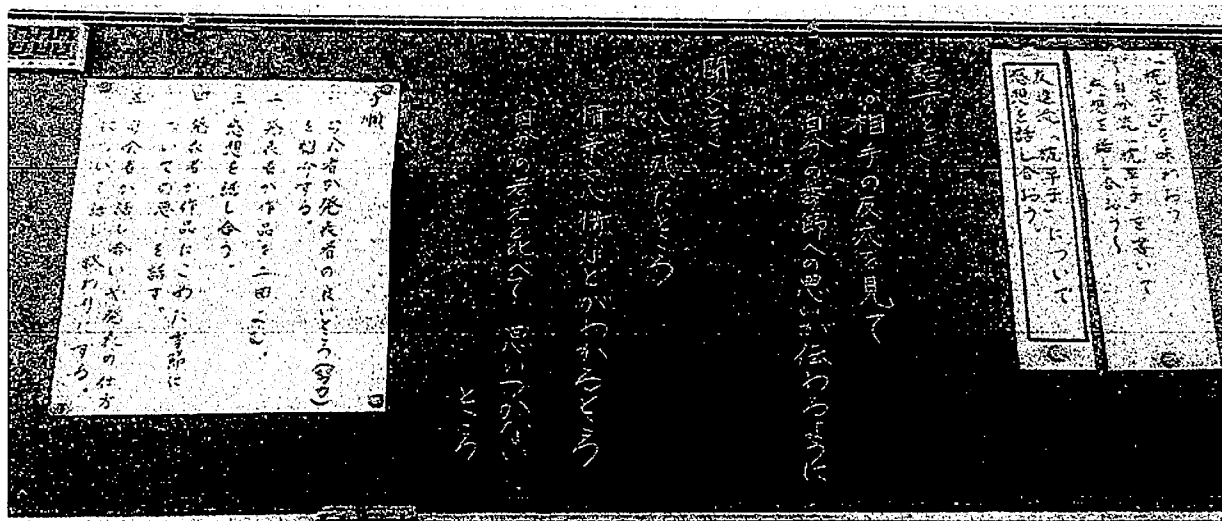
日	時	学習内容	振り返り	学習内容	振り返り
7/1	6	夏祭りの準備	夏祭りの準備	夏祭りの準備	夏祭りの準備
7/7	6	すいー	すいー	すいー	すいー
7/6	4	自分	自分	自分	自分
7/4	3	自分	自分	自分	自分
7/3	2	自分	自分	自分	自分
7/3	1	自分	自分	自分	自分

〈上から児童A、Bの振り返りカード〉

日	3	3	4	4	5	6
時間	1	2	3	4	5	6
学習計画	読む	読む	読む	読む	読む	読む
感想	自分の課題を見つけた。次は日本語のひびきを感心しながら読む。	様子を見る。いかんから。音の響きも感心。秋も読みたい。	秋と冬の前の人を感心。内容をよく読んでみた。自分流の枕草子も読みたい。	自分流の枕草子も読みたい。人しきも読みたい。むきも入れて読む。	読み方はある程度で。資料を見て。本番は見ない。にする。	へらまてつみあげてきた。感心。かしらり発音。開いて。マニタ。少し資料を見て。秋も読みたい。
その他						

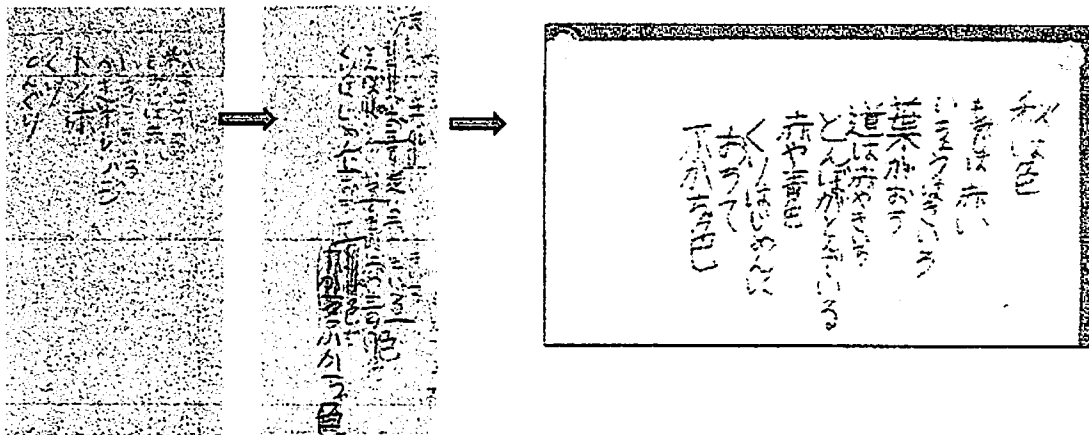
〈児童Cの振り返りカード〉

(3) 板書

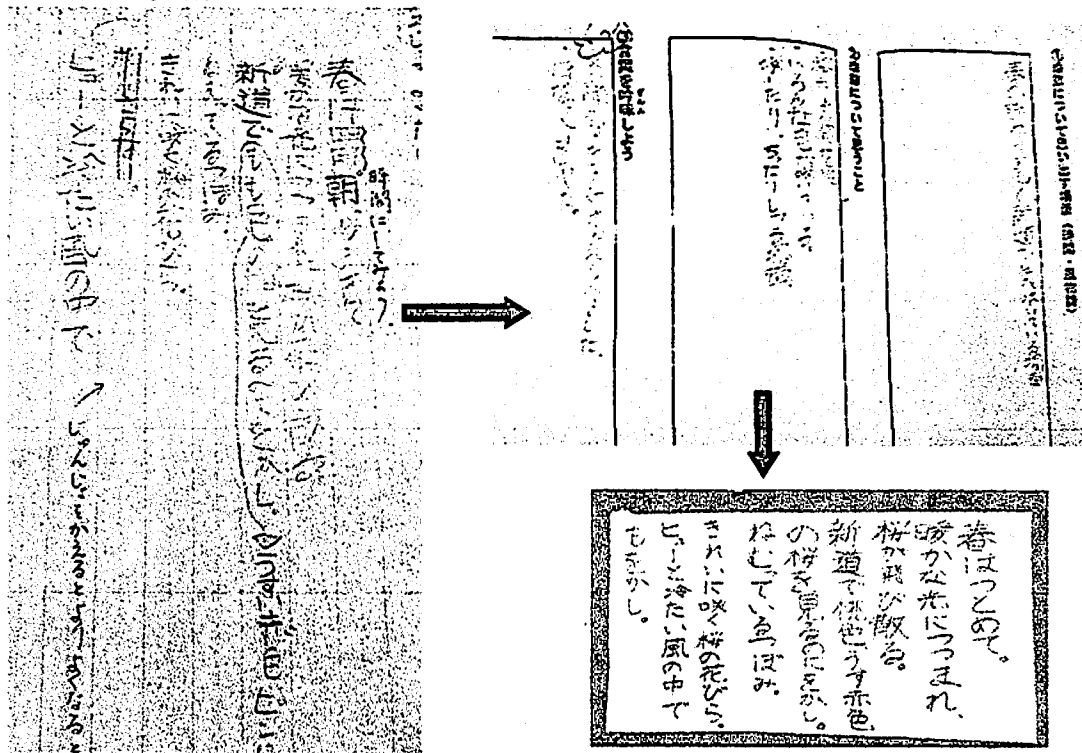


(4) 児童の作品

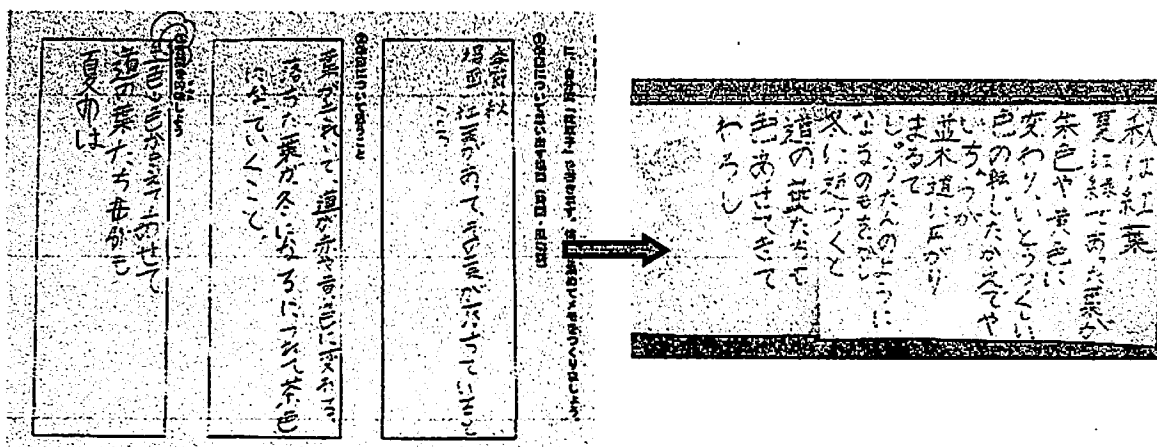
(児童 A の作品の変容)



(児童 B の作品の変容)



(児童 C の作品の変容)



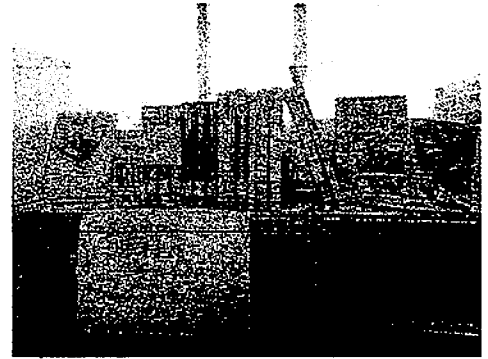
3 仮説に対する成果 (○) と課題 (●)

【仮説1について】

○古典文学にほとんどの児童が楽しさを感じ、学習に意欲的にとりくめていた。最後まで古典文学に抵抗のある児童も、適宜声をかけることで、学習全体に参加できていた。

○辞書をつかって言葉を吟味させる活動に力を入れることで、言葉1つ1つを大切にする児童が増えた。自分の表したい事柄がいろいろな言葉で表現できることに気付き、そこにおもしろさを感じている児童も多く、また、言葉について質問があってもそれに自信をもって理由を述べている児童が多かった。

○並行読書も行い、清少納言だけでなくいろいろな古典文学に興味をもつ児童が増えた。



【仮説2について】

○モデルを見て意欲が高まり、次回にどのような学習をすればよいか自分で考えて毎時間振り返りカードに書ける児童が多かった。

○どのような場面でもモデルは大切であると感じた。つけさせたい力を指導する側がしっかりと意識し、それを児童に伝えるために、児童の実態に合わせてモデルをつくり、見せることは効果的であった。

●振り返りカードを活用できていない児童が数名いた。自分の成長に気付かせ、自己肯定感を高めるとともに、学習してよかったという思いが感じられるようにしていきたい。

【仮説3について】

○聞き手を育てる指導を大切にすることで、話し合いが活発になるであろうと考え実践した。実践前は、話すことのみ、聞くことのみに意識が向いている児童が多かったが、話し合いをすることで、自分の考えが深まったり広がったりすることに言及している児童が増えてきたことは大きな成果である。

○話し合いの仕方がわかり、それぞれ工夫しながら話し合いができるようになってきた。

○話し合うことのよさに気付き、相手の意図をとらえながら聞いたり、自分の考えを収集した知識や情報を関係づけて話したりできるようになってきた。

●友だちの書いた作品の意図をわかろうと努力し、季節や古語についての知識や情報を関連させて感想を述べられるようになってきたが、話型に頼っており、司会が1つの意見についての更なる意見を引き出したり、考えさせたりすることが難しかった。司会者の役割をしっかりとできるようにモデルを工夫してつくり、指導し、場に慣れさせていく必要がある。

●話し合いをすることで、よりよい考えが見つけれられたことに気付かせられるようにしていきたい。自分の考えに固執し、他の意見が取り入れられない児童が数名いるので、学級の雰囲気作り、認め合う態度なども含めて、よいものを認められる態度を育てていきたい。互いを尊重し、考えたり想像したりことを話し合うことで深め、それを表現できる児童を育てたい。

② 教員のモデル

モデル動画を高学年部会の教員で協力して作成し、導入で児童に見せた。

発表者が話し、聞き手が聞くだけでなく、発表者と聞き手とが意見を出し合いながら作品についてより深く考え、季節に対する感じ方について話し合えるように気を付けて作成した。

- 1：司会者（話し手と同じグループ） 2：発表補助（話し手と同じグループ） 3：話し手
4：聞き手（他グループ） 5：聞き手（他グループ） 6：聞き手（他グループ）

1：これから貝渕さんの発表をはじめます。

2：（黒板に清書した自分流「枕草子」を貼る。）

1：貝渕さんは、気持ちを表す言葉をたくさん迷って選んだので、そこに気を付けて聞いてください。

4、5、6：はい

3：では、私流「枕草子」を発表します。

冬はつとめて。

キーンとした寒さの中、外に出ると、

空気が澄んでいて、しゃんとした気持ちになる。

2時間目になって少し暖かくなると、

グラウンドがぬかるんでいて

体育ができなくなるのは、わるし。

1：貝渕さんありがとうございました。聞いていた皆さんはどんな場面を思い浮かべましたか。

感想を発表してください。

4：キーンとしたというところが、すごく寒いことを表しているように感じて、いい表現だと思いました。

5：「つとめて」は早朝なので、朝練のことかなと思いました。頑張ろうという気持ちを感じました。僕もそういう風を感じたことがあるなあと思いました。「グラウンド」は、「校庭」にした方が、外来語ではなく日本語だからいいと思いました。

6：しゃんとした気持ちというのがどういう気持ちかなと思いました。私には思いつかない表現でした。

1：どういう気持ちか説明できますか。

3：はい。「しゃんとした」は、「きちんとした」という意味です。

6：わかりました。ありがとうございました。

1：最後に感想を聞いて、貝渕さんはどう思いましたか。

3：私が一番みんなに伝えたかったのは、冬の朝にやる気になる気持ちと体育ができなくなると嫌な気持ちです。「しゃんとした」のところや、「キーンとした寒さ」は、言葉に悩んだところだったので、みんなにわかってもらえて、よかったです。「わるし」を使ったところは、体育ができなくて嫌な気持ちを込めました。助言ももらえてよかったです。終わりです。

1：ありがとうございました。僕は、「わるし」の場面も、様子がよくわかると思いました。みんなが貝渕さんのものの見方を感じていてよかったです。これで、貝渕さんの発表を終わりにします。

③ ビデオ 2～4 文字起こし

ビデオ2「作品の磨き合いの様子」



(C: 抽出児童 C)

C: では D さん次に発表をお願いします。

D: 秋はつとめて。

もみじやいちょうが美しいのは、いうべきにもあらず。

ひかりがあたりすけてきれいになるのをかし。

夜になりて、もみじが見えなくなるのは、わろし。

C: では、何か質問や感想はありますか。

E: はい。

C: E さんお願いします。

E: 「もみじや」「もみじが」というところが同じ言葉を使っているので違う表現にできないかなと思いました。

(D: メモをする。)

C: 他にはありますか。(無いようなので) じゃあ僕が。

秋は「つとめて」っていうふうに最初の書き出しなのですが、もみじやいちょうがきれいというのは早朝(にきれい)のことですか。

D: そうです。

ビデオ3 動画での発表練習の確認の様子



(自分の発表の様子をタブレットパソコンで撮った動画で見て)

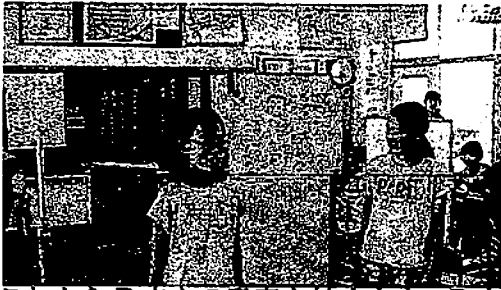
F: 資料とかを見過ぎたから・・・最後のところも間違えたから・・・気を付けた方がいい。

G: まちがって「霧も霜も」と言っていたから「霧や霜も」(だったよね)

ビデオ4 自分流「枕草子」発表会の様子 (A、B、Cはそれぞれ抽出児童 A、B、C)

A、C、D (ビデオ2と同じD)、Iは秋グループで聞き手。

Bは発表者。Hは発表者と同じ春グループで一緒に作品を練った仲間であり、司会者をつとめている。



児童Bが、前をしっかりと向いて、聞き手を見ながら最後まで話すことができた。指導中めざした発表者と聞き手との話し合いも見られた。

児童Cも、自分の言葉で話し合いに参加できた。

H: これからBさんの発表を始めます。Bさんは「ヒューと冷たい風の中で」のところを冷たい感じで読むので聞いてください。

B: 春はつとめて。

暖かなひかりにつつまれ、桜が飛び散る。

新道で桃色、うす赤色の桜を見るのに をかし。

ねむっているつぼみ。

きれいに咲く桜の花びら。

ヒューと冷たい風の中でも をかし。(2回繰り返す。)

H: 聞いている皆さん、何か質問や感想はありますか。(聞き手児童が手を挙げて、Hが指す。)

I: 「ねむっているつぼみ」というのが思いつかないのでもいいと思いました。あと、昔の言葉を使っているのでもいいと思いました。(また、聞き手児童の手が挙がり、Hが指す。)

C: 「ヒューと冷たい風の中で」というところの「ヒュー」というのがすごく冷たいというのが伝わってきたのでもいいと思いました。あと、「新道」というのはどういう道のことですか。

B: 「新道」というのは・・・新しい道のことで(考えはじめて間があくが、話すことがきまると相手を見て)一本道のところに桜がいっぱい咲いていてそれが満開にさいていてそのイメージでそのながめを思い浮かべながら書きました。

C: わかりました。ありがとうございます。

H: 他にありますか。

D: ぼくもIさんと同じで「ねむっているつぼみ」というのは思いつかなかった表現でした。

「をかし」というのは「いい」という意味があると思うのですが、二回つかっていて「風の中でもまたいい」となっているのでつかい方がいいと思います。

H: 他にありますか。

A: IさんとDさんと同じで「ねむっているつぼみ」というのは、ぼくは思いつきませんでした。

H: Bさんどうですか。

B: 「ヒューと冷たい風の中」のところをみんなに伝えたいと思って・・・気を付けたのですが、違うところで、「ねむっているつぼみ」は・・・私の気をつけていなかったところなので、ちゃんと聞いてくれて伝わったのでよかったです。

H: 私はBさんが伝えたいことが聞いている皆さんに伝わってよかったと思います。これでBさんの発表を終わりにします。